

## 平成 22 年度第 2 四半期（平成 22 年度上期）投資家説明会における主な質疑応答

平成 22 年度第 2 四半期（平成 22 年度上期）の投資家説明会におきまして、皆様からお問い合わせが多かったご質問への回答を、以下の通り掲載致します。  
なお、投資家説明会の概要につきましては、「プレゼンテーション資料」をご参照ください。

[http://www.smfg.co.jp/investor/financial/latest\\_statement/2011\\_3/pdf/h2209\\_setumei.pdf](http://www.smfg.co.jp/investor/financial/latest_statement/2011_3/pdf/h2209_setumei.pdf)

### Q1. バーゼルⅢにおけるコア Tier I 比率はいくらですか。

A1. 10 年 9 月末時点におけるコア Tier I 比率は、新規制導入時の定義、すなわち、控除項目を控除しない場合、評価差額金を含まないベースで 8 % 半ば弱、評価差額金を含むベースで 9 % 弱を確保しており、規制導入時の最低所要水準である 3.5% の充足は問題ない状況です。

また、新規制完全実施時の定義、すなわち、控除項目を全て控除する場合（評価差額金を含む）では、10 年 9 月末時点で 7 % 弱と試算しております。  
従って、2019 年 3 月末に向けて着実に内部留保を積み上げることで、最低所要比率に資本バッファを加えた 7 % の水準につきましても、追加増資をせずとも、十分充足可能と考えております。

### Q2. バーゼルⅢ導入によるリスクアセット増加影響は何%ですか。

A2. 現時点で算出方法が明確に定まっていない部分もありますが、マーケットリスク規制の見直しやカウンターパーティーリスクに対する資本賦課等によるリスクアセットの増加影響は約 5 % と試算しております。

本資料には、当社グループの財政状態及び経営成績に関する当社グループ及び当社グループ経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」が含まれております。多くの場合、この記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、当社グループのビジネス戦略が奏功しないリスク、合併事業・提携・出資・買収及び経営統合が奏功しないリスク、海外における業務拡大が奏功しないリスク、不良債権残高及び与信関係費用の増加、保有株式に係るリスクなどです。こうしたリスク及び不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。当社グループの財政状態及び経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出した Form 20-F、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものをご参照ください。